

早稲田日本語教育実践研究 第7号

研究プロジェクト名	CJL で学ぶ学習者のためのレベル判定テスト開発
研究代表者名	伊藤奈津美（日本語教育研究センター）
研究メンバー	岩下智彦（日本語教育研究センター）、沖本与子（同）、三好裕子（同）、毛利貴美（同）
設置主旨	日本語教育研究センター（以下 CJL）では、CJL で日本語を学ぶ外国人留学生が自分の日本語レベルを判断する際の指標となる新たな客観テストの開発が必要となったため、2020 年度の完成と実施を目標に、オンラインのレベル判定テストを作成することになった。本研究では、テストを開発する過程で試作した問題の妥当性や改善点を検証するためにパイロット調査を行う。その分析結果は、2019 年度より実施予定の総合日本語科目を対象とした大規模調査の内容に反映する。
2018 年度活動計画	本研究では、パイロット調査として、CJL 総合科目群の入門日本語、総合日本語 1-5 レベルの学習者を対象に Course N@vi 上で語彙・文法のレベル判定テストを受験してもらう。調査はコーディネーターあるいは常勤教員が担当する 1-2 クラスで調査協力者を募る。調査時期は 1 月～2 月を想定し、各レベル修了程度の問題に解答できるかどうかを検証し、さらに問題ごとにレベル判定に有効かを分析する。分析結果から、試作した問題の妥当性や改善点を検討する。また、調査の結果の分析と並行し、2019 年度春学期実施予定の本調査に向けた準備を行う。
2018 年度活動実績	<p>2018 年 10 月より、過去のレベルチェックテストおよび各レベルで使用している教科書などを参考にし、語彙・文法のテスト項目の作成に取り掛かった。当初、各レベル語彙 10 問、文法 10 問の全 120 問程度の項目作成を予定していたが、研究プロジェクト内で検討したのち、常勤教員からのフィードバックを経て、全 147 問の試作版レベル判定テストを完成した。さらに、調査対象として総合日本語 6 レベルを加えることとした。</p> <p>2018 年 12 月には上述のレベル判定テストを入門日本語、総合日本語 1-6 の調査対象クラスの Course N@vi 上に設置した。また、調査説明書兼同意書を作成し、英語・中国語に翻訳するなど、パイロット調査に向けた準備を行った。</p> <p>冬休み明けの 2019 年 1 月 7 日より調査対象クラスの学習者に調査協力を呼びかけた。有効回答数は 96 名で、入門日本語（7 名）、総合日本語 1（12 名）、総合日本語 2（17 名）、総合日本語 3（8 名）、総合日本語 4（20 名）、総合日本語 5（14 名）、総合日本語 6（18 名）であった。</p> <p>分析の結果、α 係数は 0.9 以上と十分な値でテストの信頼性が示唆された。一方で、項目分析の結果、ほぼ全員が正答できる項目や受験者能力の弁別性に寄与していない項目が散見され、一部項目修正の必要性が示された。</p>
予算額	290 千円

研究プロジェクト名	オンデマンド講義を活用した初級 e-learning 教材の開発
研究代表者名	木下直子（日本語教育研究センター）
研究メンバー	毛利貴美（日本語教育研究センター）佐野香織（同）， 李址遠（同），込宮麻紀子（同），大熊伊宗（同）
設置主旨	本研究は、本学における英語学位プログラムの初級日本語学習者を対象とした総合日本語コース「基礎日本語 1 (1)」「基礎日本語 1 (2)」の開発を目的としている。本コースでは、学習者の理解度に合わせて何度でも視聴することができる「オンデマンド講義」と教師や学生とのインターアクションを主軸とした「対面授業」を組み合わせたブレンデッド・ラーニングで学習・教育の質の向上をはかる。
2018 年度 活動計画	「基礎日本語 1 (1)」「基礎日本語 1 (2)」の①本文会話，②文法・文型説明， ③語彙のコンテンツ確認および②③の PPT 作成と動画収録，到達度を確認するクイズ作成を行う。
2018 年度 活動実績	<p>1. コースデザインの検討</p> <p>学習者のニーズ，学習理論，学習環境要因を考慮した上で，「基礎日本語 1 (1)」「基礎日本語 1 (2)」の 1 コースあたり全 12 回から成るコースの目標およびシラバスを作成した。その上で，その目標，シラバスにもとづき，各回に 3 種類の動画コンテンツ（①本文会話，②文法・文型説明，③語彙）を設けることにした。</p> <p>2. コースにおけるコンセプトの検討</p> <p>これまでのオンデマンド講義にはない本コンテンツの特徴は，2 点ある。1 点目は，早稲田大学という大学環境を舞台に留学生が日本語を使いながら，人間関係を構築し，社会とつながっていくというコンセプトとした点である。2 点目は，一般的にオンデマンド講義の大きな課題として掲げられている継続性の問題を考慮した点である。</p> <p>3. パイロット調査をふまえたコンテンツ開発</p> <p>2018 年度は，活動計画で示した通り，「基礎日本語 1 (1)」「基礎日本語 1 (2)」の 2 つのコースで用いる動画コンテンツ（①本文会話，②文法・文型説明，③語彙），教室活動用の教材およびクイズの作成を行っている。なお，「基礎日本語 1 (1)」については，秋学期以降，動画の収録・編集を行った。また，各動画コンテンツの内容を検討すべく，日本語初級学習者を対象に，2 度にわたりパイロット調査を行い，語彙の提示のしかた，会話の練習方法の行い方，学習の継続性へのしかけ作りについて確認した。</p>
予算額	2,167 千円